“生ごみカラット”とは

“生ごみカラット”は下の写真にあるように、外容器、中容器、コバエ用ネット、水きりネット、浅い受け皿（金網）のセットで構成されています。

これらと新聞紙を利用して、生ごみの腐敗臭を発生させることなく乾燥させる用具です。

※外容器は本来、堆肥化を行う場合に利用するものですが、乾燥した生ごみの保管容器としても利用できます。

（1）生ごみは水分をよく切る。

“生ごみカラット”は生ごみを風通しの良い状態で乾燥させ、生ごみのイヤ～な臭いを出す嫌気性微生物の活動を抑える容器です。臭いを防ぐ最大のポイントは生ごみを濡らさないこと！です。そのコツの一つとして、流しの排水溝の受け皿が深いものである場合は、“生ごみカラット”のセットに付いている『浅い受け皿』に換えて、なるべく生ごみに水分を吸わせないようにしましょう。また茶がらなど水分の多い生ごみは『水切りネット』で水分をよく切っておきましょう。

（２）生ごみを新聞紙に包みに入れる。

次に、生ごみを入れるために新聞紙を袋状に折って下さい。ここに生ごみを入れます。このとき一つの包みにあまり詰め込みすぎないようにしてください。

（３）“生ごみカラット”で乾燥させる

“生ごみカラット”の中容器に生ごみの入った新聞紙の包みを立てて置きます。これにコバエ用ネットを被せて、風通しの良いところで吊るすなどして乾燥させてください。

乾燥させておく期間は皆さまのライフスタイルに合わせて自由に行ってください。１週間～２週間程度の長いスパンで行っていただいても良いですし、次の可燃ごみの日まで、というような比較的短いスパンでも構いません。期間をいろいろ変えてみて、どれくらいの日数で充分な効果が得られるのかを試してみるのも面白いと思います。

※古い包みの生ごみが乾燥し終わる前に、新しい包みを追加しても構いません。

包みを立てて置いてください

コバエ用ネットをつけて風通しの良い場所で吊るしましょう

（４）外容器で保管する

“生ごみカラット”で乾燥した生ごみはそのまま保管しておいてもイヤ～な臭いを出しません。

　中容器である程度乾燥したものは、新聞紙に包んだまま外容器に移してためておきましょう。

　こうしておけば頻繁にごみ出しをする必要がありません。

外容器も風通しの良い場所で吊るしてください

（５）生ごみの廃棄

包みごと可燃ごみとして処分してください。

※ご自宅でコンポスト化容器等により生ごみの堆肥化が可能な場合は、廃棄せず活用していただいても結構です。

“生ごみカラット”に入れて吊るしておくだけで生ごみの重量が本当に減っていくので、とっても手軽に“エコ”に貢献している実感が得られますよ♪